

# 枝打作業における「安全ロープ」の使用について

中津川営林署 松 下 清 平  
堀 一 平

## 1 動 機

### (1) 枝打の高さの均一化

新勝鎌による枝打作業（2回目）において、急斜面で谷側に位置して打った時、山側で打つ高さより1.0 m以上も低くなる。その分が打ち残りを生ずる。

### (2) 不安全行動の排除

長い柄をふりかざしつ、上を向いた姿勢で作業をするため、急な斜面では不安全行動になる。

### (3) 疲労度の軽減

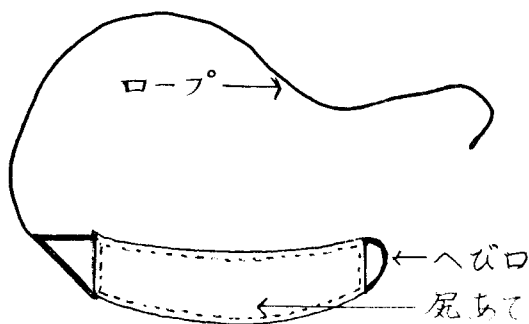
頭を上げて、不安定な姿勢なので疲労度が高い。

こうした問題点を解消するため、「安全ロープ」を考案したものである。

## 2 「安全ロープ」の構造と作り方について

### (1) 構 造

### 安全ロープ



### (2) 材 料

ア. 太さ、1.0 cm～1.5 cm、長さ3.0 m、1本マニラロープ又はナイロンロープ。

イ. 尻当て用の、布ホース（消防用中古品）長さ60cm程度に切ったもの、2枚。

### (3) 作 り 方

ア. 2枚のホースを、尻が密着できるように浅い、舟底型に縫い合わせる。

イ. 上下にロープを通して縫い付ける。

ウ. 右側の端は、ロープ取付部として、ヘビ口を5cm程度残す。

エ. 左側の端は、上下の一方の長いロープに編み込む。

### 3 「安全ロープ」の使用方法

- (1) 枝打ちをする木の山側の位置で取り付ける。ヘビ口に、はたじね結びにする。
- (2) 木と人との間隔は20cm以内として、尻当てを完全に密着させる。
- (3) 体をロープにあずけて、枝打原則に従って、左廻りに枝を打つのである。

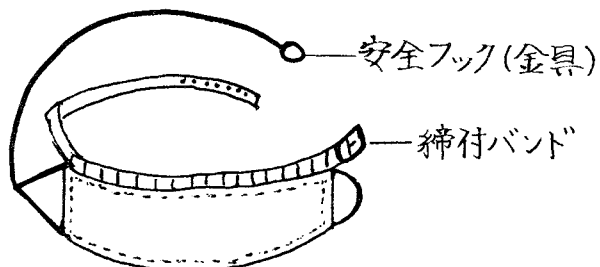
### 4 「安全ロープ」の利点

- (1) 枝打高の均一化が図れる。  
谷側の枝も残ることなく、山側の枝に均等に打てる。
- (2) 不安全行動の是正  
身体が安定して、安全な作業ができる。
- (3) 疲労度が軽減できる。
- (4) 体が安定しているため、入念に仕上げができる。
- (5) 使用方法が簡単である。
- (6) 作製が簡単である。
- (7) 経費が安くできる。
- (8) 全重量が軽く(800g)手軽に持ち運びができる。

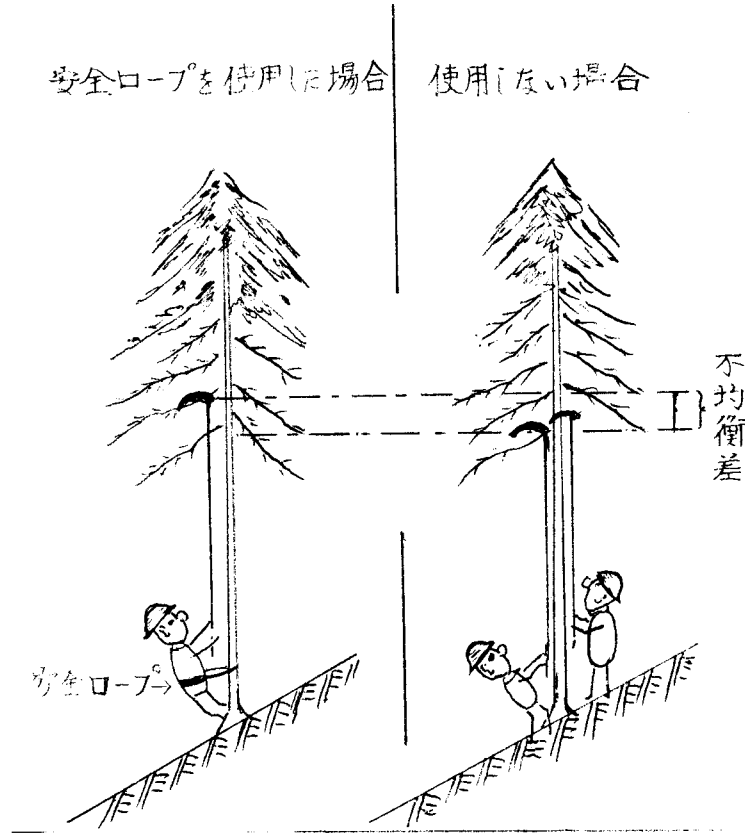
### 5 今後の改良点

- (1) ロープの端に安全フック金具を取り付ける。
- (2) 固定バンドを取り付ける。

## 改良安全ロープ



# 枝打高の不均衡差見取図



安全ロープ使用状況



谷側での作業状況



山側での作業状況